



沖縄県地球温暖化防止活動推進員 NEWSLETTER

沖縄県地球温暖化防止活動推進員の活動等についてご紹介

沖縄県地球温暖化防止活動推進員とは、

沖縄県知事から委嘱を受け、県内で地球温暖化の現状及び地球温暖化対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動を行っています。

脱炭素社会の実現に向け
県内各地で活動中

沖縄県地球温暖化防止活動推進員（以下、「推進員」）は、「地球温暖化」などをキーワードに、県内の学校や自治会等を対象に出前講座を展開中！「地球温暖化やその影響を少なくするためにはどうしたらいいか知りたい！」等のご依頼は、沖縄県地球温暖化防止活動推進センター（本チラシ「お問合せ」先）までご連絡ください。

活動事例1 海ごみとウミガメを子ども達と考える

開催月：2026年 9月5日（土）推進員：📌 松川 夕華さん 山川 葉さん

小学生13人を対象に「海ごみとウミガメ」についての出前講座を開催した松川さんと山川さん。2人は推進員かつ琉球大学大学院の研究生。講座に参加した子ども達には、ハワイや北欧での自身の留学経験を交えながら地球温暖化の影響等の話をしました。

山川さんは、地球温暖化の原因や海ごみ、マイクロプラスチックの説明をし、子ども達に自分が持っているプラスチック製品をみつけてもらい、プラスチック製品が身近にある物を認識してもらいました。それらをポイ捨てなどすることにより起こる影響等について、動物の写真なども見せながら話をしました。

松川さんからは、ウミガメと海ごみやゴーストネットのこと、研究で明らかになったウミガメの生態の説明も交えながら、海ごみによる海洋生物への影響について話をしました。

また、レジン（液体から紫外線や混合によって固まる「合成樹脂」）で海ごみを封入したウミガメの駒を作り、それを使ってウミガメの生態と海ごみとの関係をテーマにしたすごろくを体験しました。すごろくでは、ウミガメにとってネガティブなマス（ごみの誤飲など）に止まると「マスカード」を受け取り、最終的に手元のマスカードが少ない人が勝ちというルールを設定することで、「ごみ」や「人間の行動」が生物に与える影響について、小学生でも楽しみながら学ぶ内容としました。

松川さんと山川さんは、自分たちの研究していることを子ども達に伝えることで、周りを海に囲まれた沖縄も地球温暖化の影響を受けることを考えるきっかけづくりを目指し今後も活動を展開していく予定です。

松川さんと山川さんは、琉球大学大学院生。
研究と推進員活動の二刀流！

受講した子どもたちの感想

「講座のまえは、地球温暖化と海ガメなんてぜんぜん関係ないと思っていたけど、今日の話を聞いて、温暖化が進むと海ガメにオスがいなくなると知っておどろきました。」



開催の様子

推進員発 コラム

省エネ義務化の時代へ

推進員/一級建築士：伊波 誠了 さん



近年、日本の建築をめぐる制度は大きく変化しています。令和4年の省エネ法改正により、すべての新築建物に「省エネ基準への適合」が義務付けられ、これまで一部の中・大規模建築物に限られていた省エネ性能は、すべての建物が「必ず満たすべき標準」となりました。

なぜ今、これほど建築物の省エネが求められているのでしょうか。

日本の温室効果ガス排出量やエネルギー消費量の約3割は、住宅やオフィス等の建物の使用に伴うものです。脱炭素社会の実現に向け、建物の省エネ化は避けて通れない課題です。そこで注目されているのが、高断熱と省エネ設備で消費エネルギーを抑え、太陽光発電などでエネルギーを創ることで、年間のエネルギー収支の実質ゼロを目指す「ZEH（ゼッチ）（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）」や「ZEB（ゼブ）（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」です。



亜熱帯気候の沖縄では、ZEH・ZEB化が地球環境だけでなく、暮らしや事業を守るうえでも重要な役割を果たします。

沖縄特有の厳しい暑さや高い湿度は、居住性や建物に大きな負荷を与えます。高断熱・高気密なZEH・ZEBは外の熱気を遮り冷気を逃がさないため、エアコンの電気代を大幅に削減できます。さらに室内の温度・湿度が一定に保たれ、沖縄の悩みである結露やカビ・ダニの発生を抑え、住む人の健康を守ります。また、太陽光発電や蓄電池を備えれば、台風による停電時にも電力を確保できます。

私たち建築士の役割は、制度の背景にある課題を見据え、沖縄の風土に寄り添いながら、数十年先まで快適で経済的、安心な空間を提案することです。制度が変わる今こそ、ZEH・ZEBをぜひご検討ください。

*「ZEH」、「ZEB」について：「減らす（高断熱・省エネ設備）」と「創る（太陽光発電等）」を組み合わせ、年間に使うエネルギーと創るエネルギーの収支を実質ゼロにすることを目指した建物のこと。



伊波さんは、
推進員と建築士の二刀流！



コラム 2050年の天気予報（Ver.2）

2026年には気温40度以上を「酷暑日」とすることが気象庁で決定され、既に日本各地で何度も「酷暑日」が記録されています。また、熱中症や大雨、台風など気象災害に関する報道も耳にする機会が増えた気がします。

このような中で、皆さんは、2050年の天気予報がどうなるか考えたことがありますか。

2050年の日常を最新の科学的知見に基づいて予測した動画「2050年の天気予報（Ver.2）」が公開されています。

2050年って、まだまだ先だと思いませんか。「2050年の天気予報（Ver.2）」が現実ならないように、「いま」「自分たちにできるCO2削減」を「一つひとつ」、推進員と一緒にやってみませんか。

▶ YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/@2050tenki>
「2050年の天気予報」製作委員会（日本気候リーダーズ・パートナーシップ/NHKエンタープライズ/気候キャスターネットワーク/クリエイメート・ダイアログ）

新人推進員さんをご紹介

- ①推進員になった動機
- ②活動の抱負



松川 夕華 さん

① 大学でウミガメの研究をしていく中で、気候変動や地球温暖化が生物に与える影響を身近な問題として捉えるようになりました。研究や地域活動の経験を活かし、温暖化防止につながる行動を広げたいと思いました。

② 沖縄の豊かな自然を守るため、子供たちをはじめ地域の皆様に地球温暖化を身近な問題として考えてもらえるように活動に取り組みたいです。自然や生き物への関心を日々の行動に繋げるきっかけを作っていきたいです。

「一緒に活動する推進員を募集中」

地球温暖化防止活動推進員に興味のある方！一度お問合せください。地域であなたの活動を広げてみませんか？沖縄本島や宮古島、石垣島の各地で推進員さんが活動を展開しています。推進員の任期は3年。当センターが実施する研修（1時間程度/受講料無料）を受講し、その後、沖縄県知事より委嘱後に活動開始！ ご参加をお待ちしています！



沖縄県地球温暖化
防止活動推進センター
Webサイト

